

身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

すいた市民環境会議

2001年3月 第21号

ふき た さ と 吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 代表/小田忠文 年会費/個人会員1000円、購読会員1000円、法人会員10,000円
NPO法人すいた市民環境会議事務局/〒564-0032大阪府吹田市本町2丁目18-8/TEL & FAX 06-6319-0630 小田(午後6時以降)
ホームページ <http://www.sutv.zaq.ne.jp/sskk/sskk-top.htm>

振込先/00980-3-28845
編集長/古谷啓伸

特定非営利活動法人(NPO)

すいた市民環境会議 第2回総会

日時 2001年5月12日(土)午後1:00~4:00

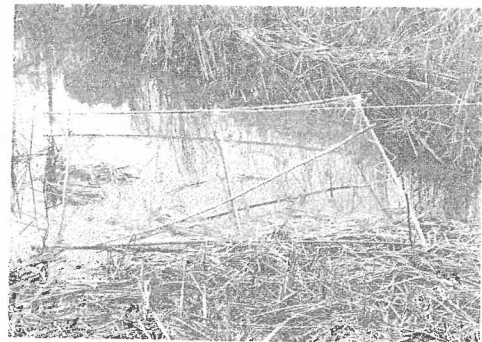
市民会館大集会室

NPO法人の認証を受けました 2頁



←工事前、水をたたえるピアノ池

防鳥網で魚を保護↓



藤白公園のピアノ池の工事で魚たちに愛の手を 8頁

観光マップ「あろック吹田」を市に納入 6頁

この夏、10ヶ所でヒメボタルの生息調査 7頁

理事△云

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。

成立 特定非営利活動法人すいた市民環境会議

2月23日付けで大阪府からNPO法人の認証を受けました。それにしたがって
3月6日法務局に登記しました。

すいた市民環境会議は、残務整理のためしばらく続きます。

総会案内 日時 2001年5月12日(土) 13:00~16:00

場所 市民会館大集会室

議案

- ・2000年度 事業・会計報告
- ・2001年度 事業案・2001年度予算案
- ・新理事選出

2001、2002年度の理事候補を受け付けます

定例の理事会に出席できる事が条件です(2000年度は毎月第3土曜日 13:30~)

4月15日までに事務局に書面で届けてください。形式は問いません。

〒564-0032 吹田市内本町2丁目18-8



《 吹田市の鳥 NO.18 》

キジバト (雉鳩)

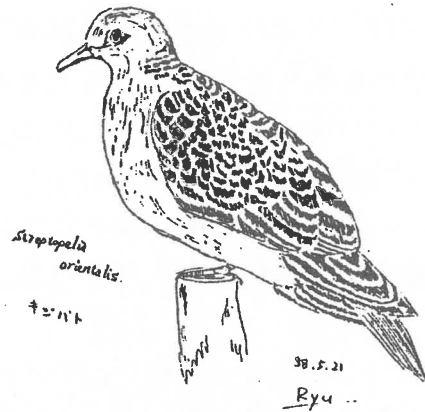
ハト科

平(ヒラ) 軍二・山田西

キジバトは昔懐かしい唱歌に歌われた「ハトポッポ」の主人公で、繁殖期になると吹田市内でも雄が歌うハトポッポの歌「デデーポッポ」が聞こえてくる。市街地から山地にかけての開けた場所で生活しているキジバトは、地上を歩きながら草の実・木の実、そして虫などの餌を探しているの姿が良く観察できる。

昔は冬になると里に下りてきたキジバトは、繁殖期には山へ帰っていたと言われていたが、今では平野部でも繁殖しているの、一年中、住宅地や公園で観察できる。

キジバトはあまり高くない木の枝別れの部分に、小枝を集めた粗末な巣を作るが、木の葉が落ちたあとの街路樹にキジバトの巣を見つけ、人々が生活している場にほど近い所で子育てしていたのに、全く気づかなかったことを知りびっくりすることがある。



キジバトは体長33cm、公園などに多いドバトとほぼ同じ大きさのハトである。上面に赤味がかかった灰褐色のうろこ模様、下面は紫味がかかった灰褐色をしていて、首筋にある青と黒の線に特徴である。

キジバトはユーラシア大陸東部の温帯～亜寒帯の林で繁殖しており、日本では全国各地で、近畿地方でも普通に繁殖している。キジバトは木の実・草の実などの植物食が中心であるが、地上にいた虫も餌としている。キジバトは豆類も好きで、私は子供の頃に田んぼの畦に植えられた大豆の種が、ハトに食べられて困ったという話を良く聞いたが、この犯人はキジバトであったと推定している。

キジバトなどハトの仲間は、ピジョンミルクと呼ばれている自分の体内で作った乳液をヒナに与えるので、虫をヒナの餌としている他の小鳥類より繁殖期間が長い、晩秋の紫金山公園で、シイノキに作った巣に座ってヒナを暖めているキジバトを見たことがある。

一方都市公園・神社仏閣、住宅地など身近な場所にいるハトはドバト、原種のカワラバトから愛玩用に作り出された人工品種である。公園などにドバトが多い理由は、伝書鳩として飛ばされたハトが自分の行き先を見失ったとき、人から餌をもらえる場所に集まってきたためと思われる。

ドバトにはいろんな色をしている個体があるので、どの色のハトがドバトとは言いがたいが、キジバトはどの個体も同じ色をしているので、ドバトとの違いは首筋に青い線があるかどうかでわかる。

(00.3.10)

大木委員会からのお知らせ

大木に名札を取り付ける作業が終了しました。

取り付け作業に快くご協力いただきましてありがとうございました。

昨年の7月から今年2月18日にかけて私有地、堤防、墓地、崖や道路脇など20箇所
所に名札を取り付けました。

予定本数40本のうち取り付け本数20本、取り付け不可8本、吹田市保護樹木推薦
5本、伐採2本、枯れ寸前1本、名札取り付け拒否4本になりました。

名札が付くと木は急に存在感が増して、より大きな見ごたえのある“木”になります。
立ち止まって名札を読んでいる人を見かけたり、見てきましたよと声をかけられると
うれしくなります。地域の人たちに愛される木であってほしいと願うばかりです。

木は人の営みの中に深く関わっていますが、当たり前にあった風景がなくなったとき
に初めて気づく存在かもしれません。

ある日ただの木だった物が、クスノキ・コナラ・アベマキなど名前がわかり、自然の
不思議に触れると虜になってしまいます。身の回りの木の名前を知って是非、馴染んで
ください。

*この取り付け作業は松下電器産業環境基金の援助をいただきました。

*この活動をもって大木委員会は解散になります。後は生き物委員会に引き継がれます。

*「すいたの古木・大木」の訂正をお願いします。

56頁 <表1> ◎幹周り500cm以上の大木

6. クスノキ 584 3 千二小正門前

⇒ 6. ムクノキ 584 3 千里山東2 (ご神木、見るのが難しい)

70頁 NO302 クスノキ 伐採

71頁 NO349 エノキ 伐採

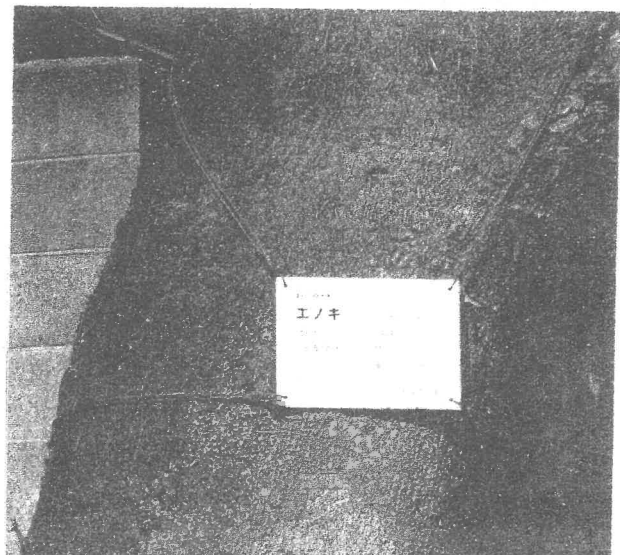
自然の不思議 <エノキ>

落葉樹は冬になると葉を落とします。

葉の表面から水分を蒸発させないためです。

湯水の真夏、木の葉が枯れるのも同じ。身

を守る知恵なのです。



早春のトウカエデ（関西大学構内）

街路樹や庭園木として植栽される落葉高木。樹勢強く紅葉も美しい。幹は直立して高さ15mに達する。樹皮は黄褐色で縦にはがれる。

花は4月、長さ2~3cmで淡緑色。散房状の花序を出し雄花と両性花が混在する。花弁、がく片は、それぞれ5個で果期は6月。台湾、中国東南部に自生し日本には1721年に。

関西大学は学問の府であり、大木の府でもある。幹周り200cm以上の木が構内に45本もある。これは吹田市内の大木の約1割を占める。正門近くに幹周り366cmのクスノキがあり、これは市内最大のもの。また法文学舎の広場には株立ち9本、幹周り計1223cmのクスノキがある。この他大学構内にはケヤキ、イチョウ、アカマツ、メタセコイアなどの大木が散在している。



浅田都司男（千里丘）

幹周り 363cm 樹高 12, 5m 株立ち 4本

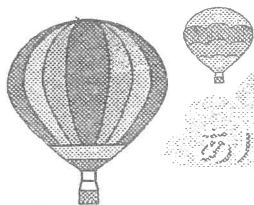
釣り人をお願い！！

先日、千里北公園で写真のような光景にであいました。釣り糸（テグス）を体に巻きつけた野鳥が、枝に絡まり身動きとれずに息絶えています。また、高町池では足にテグスを絡みつけ歩いている鳩や、指のない鳩がいます。その姿に心が痛みます。

釣り糸が切れることはよくあることですが、**放置せず回収**してください。

あなたの周りの釣り人に是非伝えてください。お願いします。（秋山）





あルック吹田の散策シリーズ

吹田市の観光マップ「あルック吹田」の完成を記念して --- 第1回 旧山田村（景観特別賞）コース ---

岡村昇二（高野台）

3月10日、阪急山田駅を出発して、主に小野原街道に沿って山田東の集落を歩きました。この集落は、今年度の市の景観賞を受賞した町並みです。伝統的な家屋が吹田市で一番よく残った地区で、歩いていて懐かしく、心のなごむコースでした。

一般参加した山田西の住民の方は、「近くにいながら、今までこんな良い所があるのを知らなかった」と喜んでくれました。

途中では、旧竹中邸の超高層マンションの工事現場をながめたが、僅かに残った馬上門が哀れに見えました（下の写真）。

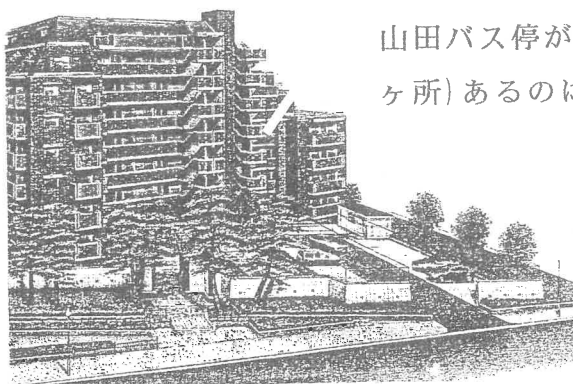
紫雲寺では本堂に上がり、江戸後期の画家・森狙仙の天井画を拝見しました。お寺が用意してくれたお茶を頂きながら、参加会費の内から買った、山田の銘菓店の「いちご餅」が皆さんに配られ、好評をうけました。

四季の花が咲く安養寺は椿が見ごろで、また本堂脇のたわわに実ったはさっくの黄色も目をひきました。

やや寒かったものの、むしろ歩くのに適した気候でした。今回の参加者は34名でした。



←着工前の竹中邸の馬上門 1998年 今回の反省点：参加者の不動産会社の完成予定図↓ 感想を求めるアンケート用紙は用意すべき。コース終点・下山田バス停が3ヶ所（上り下りで6ヶ所）あるのにあルック地図に1ヶ所しか記載しなかった。記載した停留所から350mも離れたところにまだ2ヶ所ある。



吹田市からの委託事業で吹田市の観光マップ「あルック吹田」の作製に昨年4月に着手し、3月に1万部納入しました。A4サイズ、32頁の冊子です。

まちなみ委員会は、あルックの完成を記念して12コースを順次 散策します。

今回はその第1回目でした。（古谷・記）

吹田全域でヒメボタルの調査を博物館の依頼で実施予定

副会長・高畠耕一郎（山田西）

すいた市民環境会議はヒメボタルの保護と吹田全域での正確な生息調査を吹田市に要望していましたが、その窓口になっている吹田市立博物館はすいた市民環境会議に委託し、吹田ヒメボタルの会が吹田全域でのヒメボタルの生息調査をすることになりました。

今年2月、博物館の関係者と吹田ヒメボタルの会はヒメボタル保護について話し合いました。博物館は、文化財保護審議会に新たに自然担当の委員が加わることで、市内の緑地帯でヒメボタルの生息の有無を一斉に調べたい、との見解を明らかにしました。

すいた市民環境会議（代表・小田忠文）、吹田自然観察会（代表者・金谷薫さん）、西

います。

後日、担当者の実務的な話し合いの結果、今年は吹田市内でヒメボタルが出現しそうな場所10カ所で2回、一斉に調査し、生息を確認することにしました。

一方、ここ数年調査をつづけている西山田千里緑地のヒメボタルは、吹田全域の調査とは別に例年通り調査を行います。そこでのヒメボタルは、5月下旬をピークにして約40日間見られます。（5号、13号、14号、15号、20号にも関連記事）

下記のように、説明会もありますので、週1回でいいですから、調査に参加してください。調査は5月1日から6月中旬です。

（同封の水色のチラシ参照）

山田ヒメボタルの会（代表者・長坂孟重さん）の3者は吹田ヒメボタルの会を構成し、代表者は3者連名にしています。その3団体はヒメボタル保護の立場から協力していくことを確認して

ヒメボタル調査員募集のための説明会

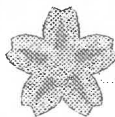
日時 4月13日（金）午後7時～9時

場所 西山田地区集会所（西山田小学校の南隣）

問い合わせ 原美智枝（☎06-6875-1305）

あろっく吹田の散策シリーズ

吉志部コース



コバノミツバツツジの花が見頃です

4月14日（土）9:30～正午頃 JR岸辺駅に集合 解散は佐井寺

千里丘コース 6月12日（土）9:30～正午頃 JR千里丘駅に集合 解散はモレル宇野辺駅

連絡先 田中一子（TEL & FAX 06-6383-5020）

いずれも小雨決行

短信

学校のヤゴ救出大作戦

トンボは晩夏から秋にかけて学校のプールに産卵する。昨年初夏、プールの清掃前にヤゴを救出した市内の学校は、小学校84%、中学校28%だった。救出ヤゴのほとんどはアカネだった。

ピアノ池（藤白台）で改修工事

サギの餌食になる魚たちに愛の手（四っ手）を

藤白台3丁目の藤白公園に、形がグランドピアノに似ているので通称ピアノ池と呼ばれる池があります。湿地にヒメガマが茂っています。ヒメガマはガマの近縁です。ヒメガマは全体に細身で華奢な感じがしますし、穂の雄花と雌花の間にちょっとすき間があるので、すき間がないコガマやガマと区別できます。

このヒメガマは晩夏に褐色の綿毛が舞い飛んで、洗濯物がよごれるとの苦情が市に寄せられていました。それで、ガマが成育できないようにし、また柳の一部も伐採する工事が昨年12月に始まりました。

池の中の泥が柔らかく、人の体重を支える力がありません。だから、人が池に入って刈り取ることが不可能です。ヒメガマは深いところには生えません。この工事は池の水位を上げて、ヒメガマを生えられなくしてしまおうというものです。また、水辺の植物を生やしたり鳥の観察場所を作ります。さらには、

東の丘の上の部分も整備するというものです。かなり総合的な計画といえるでしょう。

すいた市民環境会議は1999年12月24日付けで市長に「ピアノ池改修工事における生き物への配慮について」という意見書を提出し、1ヶ月後に市長から回答をいただいていた。吹田市は、このピアノ池の改修工事について、事前に住民代表の意見を聞いたり、ピアノ池に生息する生き物たちにも配慮した公園整備を進めるとのことでした。確かに、事前に住民代表の意見を聴く会が開かれて、それに基づく整備計画が立てられました。自治会でも、そのための相談会がもたれました。

しかし、工事が始まってみると、さまざまな問題点が目につくようになり、地元会員から問題点を指摘する声が会に届きました。とくに、問題になったのは工事が始まり水位がさがったため、生息していた魚たちがサギ類のエサになっていることや

工事の内容が周辺の住民にわかりにくいことです。多分、工事の段取りが忙しくて魚のことまで考える間がなかったのではないかと思います。または、いずれ増えて回復するからということであったのかもしれませんが。とにかく、「水位が下がったあんな狭い水たまりにあんなにアオサギが集まってくるとは」という光景でした。

この計画を立てたのは社大阪自然環境保全協会の高田会長です。設計書が緑化公園室を經由して業者に渡りましたが、意志疎通が不十分だったようです。

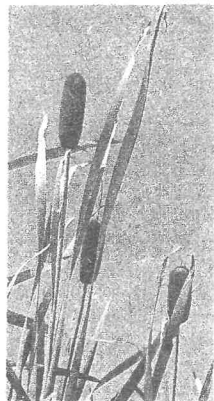
すいた市民環境会議は緊急につきの要望を提出しました。

1. 吹田市は魚や野鳥、植物などの生き物に配慮した施工管理を業者に指導すること。
2. 吹田市は看板の設置などにより地区住民に工事内容の説明をすること。

さっそく緑化公園室が緊急にできる方策を考えました。工事の現場では、最初は形だけの掲



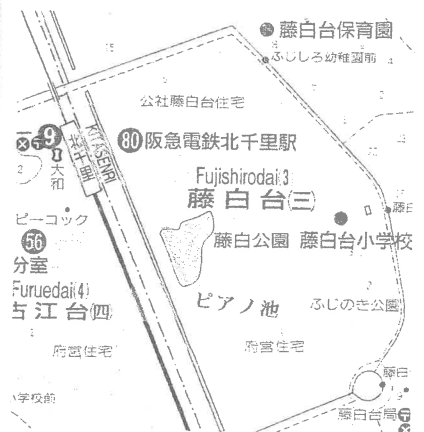
ヒメガマ



ガマ



アオサギ



示板でしたが、要望が出てまもなく立派な掲示板が立てられ、通行の人たちの池と掲示板を見比べている姿をよく見かけるようになりました。

1月31日水面に網を1張り設置しました。その後、網付近にやってくるアオサギなどの数は減りました。網は四角い網をロープで上からぶら下げた形をしています。いわゆる四つ手網です(表紙に写真)。魚にとって安全になったのかの確認はできていませんが、あの四つ手網が置か

れてからアオサギたちが徐々に少なくなりました。一時は10羽に及ぶサギがずらりと小さくなった水面に並んでいたのに、網が置かれた後ではせいぜい2~3羽程度、やがて完全にいなくなりました。これが、すでに魚を食べ尽くしたためなのか、網が置かれたため魚が捕れなくなったのかわかりません。網の下をしきりに覗き込んでいるアオサギがいましたから、食べ尽くしてはいないようです。サギはなまじ背が高くてかがみ込んで歩

けないから、網の下へ入り込めないのです(防鳥網に潜り込んで米を食べ尽くしたスズメの方が知恵者か、18号に既報)。

このあたり、工事と並行して生き物の調査が行われていれば工事の影響や防鳥網の効果などいい記録を作れて、後のためになったのに残念です。

(この記事は会員の栗谷至さんらの情報をもとに古谷がまとめました)

吹田の歴史

吹田の先人たちとサヌカイト

伊藤健一(東淀川区)

山歩き途中、迷って谷間から出られなくなった時にほしい物はナイフである。ナイフがあれば何とか数日間は生き延びることができる。

人類が最初に手に入れたかった…、手に入れた道具はナイフであった。人がナイフ状石器を手に入れたのは、約3万年前から1万5千年前とされている。安山岩を材とするこの石器はサヌカイトと呼ばれ、吹田では岸部・垂水から発掘されたことから吹田で人が最初に住みついたのは岸部や垂水であろうと言われている。

ところが、このサヌカイトの産地は大阪府太子町と奈良県の境界にある二上山付近で、二上山は何十万年も昔、活発な火山であったためにナイフ形石器の産地となった。二上山一帯の石は古墳などの石棺、後の時代には寺院の建材に使用されている。

万博公園でエジプト文明展が開かれ、同文明に

くわしい吉村教授は記念講演で「新しい文明は古い文明を学ぶ。」と語っている。吹田市域の吉志部・出口・垂水・新芦屋などでそれぞれの特色のある遺跡が発見、発掘されている。王の黄金の像も貴重だが、石器や土器、木造建築など人類が造り出した物も大切な物である。

吹田市域で発見された多くの遺跡を体系づけした研究が他市に比べて少ないのが惜しい。それにして何万年の前も昔に二上山の石が、どのようにして吹田にやって来たのだろうか。

2万年前に海面が100mも低くなり、大阪湾が全て陸地になったこと、1万年前に海面が上昇し、千里丘付近が海岸線になり、その後、大阪平野が巨大な湖になったことがヒントになるかも知れない。サヌカイトを持った人類が吹田に来たのか…、吹田の先人たちが石器を採りに行ったのか。あるいは、…

短信

市内でキツネ情報がつづく

前号の短信で吹田市にキツネが生息すると書いた。その後、北千里でキツネの巣穴を確認したとか、原町でキツネを目撃している、などと情報が入ってくる。目撃情報をつなぐと、生息する範囲が絞られそうだ。

樹木・緑の効用

秋山こずえ（清水）

樹木の存在は人間の生活環境にとって不可欠であり、その恩恵を誰しもが受けてきたはずだが、認識の差はだいぶあるようだ。

俗に緑（森林）の効用といわれるものには、地球レベルから身の周りの小さなことまで多岐にわたる。それを整理してみると、気象緩和・水保全・侵食防止・自然災害防止・防火・大気浄化・防音・生物種保全・風致快適性・保健休養・教育教養などがあげられる。その中から今回は、身の周りの効用を考えてみたい。

「森林浴」を知らない人はいないと思いますが、樹木から発散される物質を身体に浴び、呼吸することで循環器・呼吸器系や精神安定に効果があるといわれます。また、空気イオンの作用、静けさや清澄な空気、快適な安らいだ雰囲気、それに歩行などの適度な運動も加わり健康に良いと注目されているのが「森林浴」です。

樹木から発散される物質は主にテンペル系の物質でフィトンチッド (phytoncide) といい、殺菌作用や殺虫作用を持っています。このテンペルは2000種余り知られていますが、先人はそれを経験的に知っており食物の保存などに活用してきました。

柏餅の葉、桜餅の葉、ちまき、赤飯にそえる南天（私は母から難を転ずると聞いていました）、刺身にそえるしその葉などが知られています。その他植物からの抽出物の薬効も、薬品として駆虫、鎮痛、鎮静、利尿などがあげられます。

私たちの言葉の中には、森羅万象、森敵、木霊など豊かな木の文化の投影があります。国土の2/3を森林が占めるわが国は、樹木の恩恵を意識しないで今日に至っていますが、気象条件の変化や乱開発などでいつまでも続くとは思えません。

『文明の前には森林があり、文明の後には砂漠が残る』
もう一度、樹木を考えてみませんか。（3回シリーズを終わります）

- * 前回掲載の緑の効用を読んで下さいました方から参考にと「いきいき吹田」1993年版をいただきました。その中には、平成4年8月29日の吹田市内7箇所での5時から20時までの気温の調査結果が詳しく出ています。ヒートアイランド現象を防止するには、緑・土・水辺を増やしていく必要があるとの結論が出ています。こんな立派な報告書を報告書のままで終わらせず、生かす行政をお願いしたいと思いました。

今後ご指導をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



特定非営利活動法人 **すいた市民環境会議** 会員名簿

(2001年4月1日現在)

○ 正 会 員 (116人)

青木 夕ミコ	大越 好子	草野 弘靖	竹内 美由紀	西川 たけお	松井 克行
秋山 こずえ	大隅 光代	熊野 節子	武田 義明	西川 哲成	松岡 要三
浅田 都司男	岡田 篤司	熊野 三千代	田澤 修一	西野 広美	水川 晶子
熱田 克子	岡部 佐内	黒田 悦三	巽 京子	橋口 健一	南田 順子
安封 久美子	岡村 昇二	後藤 寿満子	田面 郁次	橋本 徹也	三輪 信哉
阿部 誠行	小川 畝津子	小林 幹生	田中 脩	橋本 英樹	村住 和子
天野 正子	奥山 悦男	小室 巧	田中 一子	長谷川 美津代	住本 惠子
有澤 壽子	小田 忠文	佐江 了治	千代延 明憲	土生 陽子	森本 彪
池田 薫	小田 信子	櫻井 あかね	出原 正道	播磨 真津代	山上 光枝
池淵 佐知子	海原 登美子	佐藤 和子	寺尾 恵子	彦坂 利久	山岸 貞造
伊藤 勝子	笠岡 英次	塩川 哲雄	土志 新八	平 軍二	山田 國廣
井上 雄介	香月 利明	塩田 敏治	中尾 久美子	平山 節子	山出 光文
岩溪 恭子	加藤 俊二	柴田 晃	中尾 忍	広村 知幸	山本 富雄
上田 万吉	川口 雅之	清水 由紀子	長坂 孟重	伏木 章修	由上 勇彦
宇都宮 正則	喜田 久美子	須賀 井やすみ	中土 康雄	藤村 修	吉村 哲彦
馬垣 安芳	北尾 賀永子	菅原 節子	仲埜 ひろ	古谷 啓伸	和田 学
梅原 千鶴	北村 英一	高桑 常子	中松 美智子	堀 節子	
梅原 章一	木下 宏子	高島 耕一郎	中村 小夜子	本地 綏子	
卜部 弘信	木下 嘉清	高山 宣實	西尾 熱子	前屋 弘之	
大江 尚子	木村 雄次郎	田口 實	西川 整子	牧野 展元	

○ 購読会員 (120人)

正会員から購読会員へ 移行を希望される方は
購読会員から正会員へ 書面で事務局に届けてください。

青木 潤一	上田 修大	木田 祐子	佐藤 百合子	俵石 正雄	二上 正子
赤堀 栄子	梅田 茂	北方 隆	柴原 恵	丹羽 ミネ子	上 祐子
秋山 芳恵	原 貞子	北村 正子	渋谷 千代子	辻 由美子	前 敬郎
足立 ちず子	榎原 浩子	北村 治子	新名 貞夫	寺西 尚子	瀬岡 幹
有田 亮一	太田 英子	木村 澄夫	菅原 潔	長崎 尚子	松田 達
井川 視秋子	大谷 和子	木村 雅英	新 美紀	仲 直樹	松本 成子
池上 慶子	大塚 光二	木村 裕	洲崎 たつ江	新垣 浩	宮 恵二
池澤 悦子	岡 和子	國田 三紗子	鈴木 節子	西木 勲	三崎 敬賢
生駒 敏子	岡本 悦子	栗木 祐子	鈴木 とみ子	西谷 文和	水井 正孝
石川 信行	小儀 賀代	栗本 修滋	鈴木 真代	西埜 弥生	村住 正行
石津 忠光	沖原 満生	黒沢 孝	和子 勝	長谷川 達海	住谷 正久
野 潤	奥田 倫子	後藤 波津子	瀬川 和子	浜田 政夫	室谷 久美子
石原 みずき	奥谷 正実	後籬 治人	瀬川 勝	林 捷子	本池 清弘
石原 真弓	奥地 佳子	小松 正史	瀬屋 好治	速水 裕子	山口 克也
磯江 幸彦	小田 定子	古屋 美千代	高垣 香	平沢 綾子	山下 宗一
市川 貴美代	越智 清光	権野 キヨミ	武坂 静雄	平田 賢一	山副 多子
伊藤 健一	梶川 文代	阪上 靖子	武下 郁子	平田 敏	山田 千穂子
伊藤 隆子	金子 誠一	阪口 善雄	武田 ゆき子	平野 寿美子	山根 孝
稲波 誠	川井 悠子	桜井 稀衣	田中 茂樹	福永 美代子	横山 正和
井上 正治	河面 亮	佐々木 恵子	種本 悦士	藤原 博史	吉田 栄司

○ 法人正会員 (8社)

(株)井上昇商店 (財)大阪バイオサイエンス研究所 小儀動物病院 (株)近畿シビルコンサルタント
(社)吹田医師会 (株)生物分子工学研究所 テザック繊維ロープ(株) 豊田産業(株)

くるくるプラザで 第2回環境学習発表会を見て

会員・山下宗一（茨木市）

さる2月17日（土）1時30分から、くるくるプラザマルチホールにおいて、第2回環境学習発表会 ― 教室から環境報告「21世紀へきれいな地球を」 ― が開催され、吹田市内の小中学校6校の児童、父兄、学校関係者、教育委員会、行政、市民が多数参加した。発表の内容は、川を見つめたものや、環境学習の取り組みなど様々であったが、ごみに関するものが半分以上を占めた。やはり環境問題を考える時、ごみ問題は避けて通れないものであることが再認識させられた。

発表は6本あり、どれも熱心ですばらしいものであり、子供達の取り組む真剣さに感動させられるものであった。特に、最後の「地球を救え！今私たちにできること」は4年生全員の熱演で、内容といい、演出といい、大人顔負けの出来栄である。先生方の指導はあるとはいえ、こういった取り組みが子供達が環境問題への関心を高め、自分達の問題として捉えていく第1歩となることを期待したい。

このような発表会がさらに盛んになると良い。そのために、地域の学校同士の連絡・連携・企画会議のようなものができれば、もっと前進することになる。そして、この成果を地域にどう広めていくか、会場に集まった人々をどうつなげていくかが問われているとの思いを強く感じた。

短信

自然環境講座に人気

吹田市自然環境講座「シティ・ナチュラルリスト入門講座」が昨年秋で4回目を数えた。市とすいた市民環境会議が協力しておこなっている。昨秋の講座は定員35名に対して実数29名の応募、4回の全講座に出席した人は15名、全部欠席した人は3名だった。

2001年度もつづく。バスで遠出するなどカリキュラムが一段と工夫されている。

短信

小学校に大きなピオトープ

1月、西山田小学校に府内でもめずらしいほど大きなピオトープができた。200万円を超える建設費用は大阪トラスト協会やPTAからの寄付でまかなわれた。企画から児童が参画し、工事業者の作業に児童、教師、親らも入って、シャベルを手にして協働した。阪急山田駅の東側の自然豊かな丘が開発工事で崩されているが、その土砂がピオトープの建設に使われた。

編集後記

脱字・誤字はいくら注意してもゼロにならない。前号で「野生のキツネ」と表記すべきところを「野性のキツネ」と書いて、編集委員の誰も気づかなかった。自然環境を対象にする会としてはお粗末だった。

年間発行回数が6回だったところを4回に減らして1年がたとうとしている。4回でも発行前の1カ月間は神経をすり減らして疲れる。企画した原稿の集め方がむづかしいこと、集まった原稿も割り付け・編集が大変だ。何を言われても怒らない自然だけを記事にすれば気も楽だが、いろいろありましてね。

次号の原稿締切りは5月末。お届け完了予定は7月6日。締切日を半月早めました。（古谷）

ヒメボタル調査始まる 調査員大募集

ヒメボタルの舞う西山田とてもステキですね

この調査も、今回で四回目を迎え、千里山田緑地帯に舞うヒメボタルの出現数や生態がだいぶわかってきました。

さて、今年もヒメボタルの舞う季節がやってきます。

つきましては、今年度も、地域の方々にもご協力いただき、出現数等の調査をしたいと考えております。

ヒメボタルに関心のある人はもちろん、全く知らない人もこの調査に参加して下さい。そして、ヒメボタルのことを知ってください。

下記の要項にて調査説明会を開きますのでぜひご参加下さい。

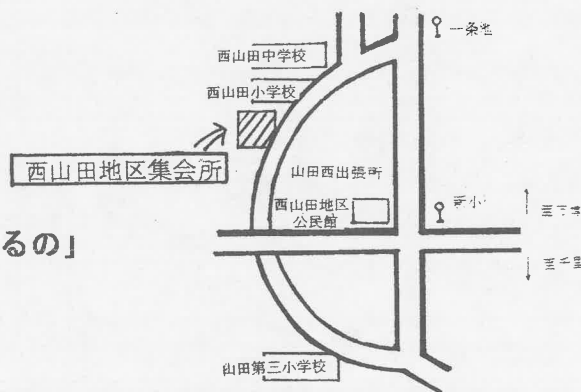
記

日時 4月13日(金) 受付 pm 6:40

説明会 pm 7:00~9:00

場所 西山田地区集会所 (第4会議室) (☎06-6876-8408)
山田西2-10-1

- 内容
- ・今までの経過
 - ・ヒメボタルの生態
 - ・昨年度の調査報告
 - ・紙芝居「ヒメボタルはいまどうしてるの」
 - ・ヒメボタルの調査内容と方法
 - ・その他(調査体制、調査時期等)



主催 吹田ヒメボタルの会 (西山田ヒメボタルの会 吹田自然観察会
すいた市民環境会議)

連絡 問い合わせ先 原 美智枝 (☎06-6875-1305)